

ENSDF グループ平成 24 年度会合議事録

日時 平成 25 年 2 月 15 日 午後 1 時 30 分～5 時 00 分

場所 原子力機構 東京事務所第 3 会議室

出席者 飯村秀紀（原子力機構）、大矢進（元新潟大）、片倉純一（長岡技術科学大）、神戸政秋（東京都市大）、喜多尾憲助（元放医研）、橋爪朗（元理研）

配付資料 (1)平成 24 年度 ENSDF グループ活動報告と次年度以降の計画
(2)評価方法についての BNL からの連絡
(3)質量評価 2012Wa38 について

議事：(1) 作業状況の確認

JENDL 本委員会に提出した配布資料 (1) に基づき、作業状況の確認を行った。A=118（喜多尾、神戸）は、評価作業を進めているが、終了までまだ時間がかかる。A=120（橋爪）は、評価作業の手始めとして、文献収集を行った。A=126（飯村、片倉、大矢）は文献を収集し、 ^{126}In , ^{126}Sn の γ 線を評価中である。また、 ^{126}Sn で最近測られた半減期 (1.98×10^5 y) が従来の値とかなり異なることについて、どの値を採用すべきか議論した。

(2) 評価者ネットワーク会議の報告

本年度 4 月に IAEA で開かれた評価者ネットワーク会議に参加した片倉委員が、スライドを用いて会議の概要を報告した。参加者は 40 人程度で過去最大であった。特に、IAEA が評価手法を教えるワークショップをインドで行ったことにより、インドからの参加者が多かった。IAEA の評価者ネットワークの担当が Abriola から Dimitriou に変わった。日本の評価者の人数 (FTE) を 0.5 から 0.2 に変更した。

(3) 評価手法の確認

評価者ネットワーク会議で決まった評価手法の変更点を BNL が連絡してきたので（配布資料 2）、それらを確認した。変更点の一つとして、 γ 線の寿命から多重極度を定める基準が変わる予定である。また、半減期を決める際の方針も新しくなる予定である。その他、スピンの決まらな

くても、それについて情報がある時は、コメントに記述することが推奨されている。

また、準位からの脱励起 γ 線が 1 本である時に、相対強度を 100 と記述するか、空欄にしておくべきか議論した。本来、空欄であるべきだが、空欄にしておく Reference Input Parameters Library で 0 と取られる問題がある。これについては、ネットワーク会議でも決着していない。議論の結果、日本のグループでは空欄にすることにした。

(4) 新しい質量評価 2012Wa38 について

β 崩壊の $\log ft$ 値を計算するのに使う質量の値は、新しい質量評価 2012Wa38 から採用することを確認した。以前の質量評価は、必要ならコメントに記述する。配布資料 3 により、喜多尾委員が、以前の質量評価と 2012Wa38 との値の違いを説明した。

(5) その他

文献の取得方法や、評価するのに使う計算コードについて情報交換した。